

ニカラグア定期報告（2022年3月）

【要旨】

内政面では、11日、2021年11月の大統領選挙立候補表明者の一人であったクリスティアナ・チャモロ氏に有罪判決が下された。外交面では23日、米州機構（OAS）常設理事会の定例会合において、アルトゥーロ・マクフィールズOAS代表部ニカラグア大使がオルテガ政権を非難するステートメントを突如行った（ニカラグア政府は、同日付で同大使を解任）。経済面では、オビディオ・レジェス中央銀行（BCN）総裁が、2022年は成長率4～5%、インフレ率は5～6%であるとの見通しを発表した。

【主な出来事】

1 内政

（1）閣僚等人事

ア 1日、オルランド・サルバドル・ソロルサノ・デルガディョ勸業・産業・通商大臣が解任された。後任としてホセ・デ・ヘスス・ベルムデス・カルバハル勸業・産業・通商特別副顧問が任命された。

イ 11日、ニカラグア政府は、スペイン政府によるニカラグア大使に対する継続的な圧力や妨害の脅威により、同大使が外交上の任務を遂行することが困難になっているとして、カルロス・ミデンセ駐西ニカラグア大使を本国に召還した。

ウ 23日、アルトゥーロ・マクフィールズOAS代表部大使が、OAS常設理事会において、突如オルテガ政権を批判したことに対し（下記2.（4）参照）、ニカラグア政府は、同大使を同日付で解任した。後任として、フランシスコ・キャンベル・フッカー駐米大使が任命された。

（2）国内外NGOの法人格停止

17日、内務省は新たに6つの国際NGOの登録を抹消し、同時に、国会は、内務省からの要請を受け、23の国内NGOの法人格の停止を承認した。

（3）「政治犯」の裁判の進捗

2月1日から実施されている「政治犯」にかかる裁判の3月の主要な進捗状況については以下のとおり。その全ての被告に以下のとおり有罪判決が下されている。

ア 3月3日

アルトゥーロ・クルス（元駐米大使）：懲役9年

フェリックス・マラディアガ（UNAB）：懲役13年

フアン・セバスティアン・チャモロ（FUNIDES）：懲役13年

ホセ・アダン・アゲリ（民間企業最高審議会（COSEP）元代表）：懲役13年

イ 3月7日

クリスティアナ・チャモロ（元ビオレタ・チャモロ財団代表）：懲役8年・罰金160万
米ドル・56万コルドバ

ペドロ・ホアキン・チャモロ（元国会議員）：懲役9年

ウ 3月31日

ファン・ロレンソ・ホルマン・チャモロ（ラ・プレンサ紙総支配人）：懲役9年

（4）3月29日までの当国における新型コロナウイルスを巡る情勢は以下のとおり。

ア 保健省（MINSA）の週間レポート

29日、MINSAは同日時点の国内感染状況について22日から29日までの週間レポートを発表したところ、概要以下のとおり（（ ）は前回数値）。

- ・新規感染者数：69名（75名）
- ・累計感染者数：14,269名（14,222名）
- ・新規死亡者数：1名（1名）
- ・累計死亡者数：229名
- ・累計治癒者数：13,970名（13,918名）

イ 市民監視団体の発表概要

25日、当国市民監視団体（Observatorio ciudadano COVID-19 Nicaragua）は、3月10日から23日までの2週間についてレポートを発表したところ、概要以下のとおり（（ ）は前回数値）。

- ・新規感染者数：31名（78名）
- ・累計感染者数：32,141名（32,110名）
- ・新規死亡者数：3名（4名）
- ・累計死亡者数：5,991名（5,988名）

ウ ワクチン等関連

（ア）4日、カナダと米州保健機構（PAHO）は、ワクチン・コールドチェーン支援として、ニカラグア保健省（MINSA）に対して13台の特殊冷蔵庫を供与した。

（イ）14日、米国ワシントン大学は、ニカラグアでのパンデミックの2年間に、新型コロナウイルス感染による死亡者が、公式発表を大きく上回る33,400名であったとする推計を報告した。

（ウ）20日、イランは、新型コロナウイルスワクチン「コビラン・バラカット」20万回分を供与した。

2 外交

（1）各国、国際関係機関等との関係

イ 6日、バチカン大使館は、ウォルデモア・サムダグ・駐ニカラグア・バチカン大使が同日から不在となる旨口上書で各国外交団に通知した。その後の12日、バチカン教皇庁は、ニカラグア政府が、同大使を追放したことを明らかにした。

カ 21日、赤十字国際委員会（ICRC）は、ニカラグア政府がトーマス・エスICRCニカラグア代表の接受承認撤回を通知する書簡を受け取った。

（2）ロシア・ウクライナ関連

ア 1日、ウクライナ情勢を受けて開催された国連緊急特別総会において、ハイメ・カスティージョ・ニカラグア国連大使はステートメントを行い、対話を基に緊張緩和することを求めるとしつつも、米国やNATOによる措置を批判した。2日、同特別総会において採決に付された「ウクライナへの侵略」決議について、ニカラグアは棄権した。

イ 2日、ココリコフ駐ニカラグア・ロシア大使は、国会講堂でロシア・ニカラグア友好議連メンバー及び国会執行部と会談を行い、ロシアの立場を説明した。

ウ 24日に開催されたウクライナを巡る国連緊急特別総会において採決に付された、「ウクライナの人道状況」に関する決議について、ニカラグアは前回に引き続き棄権した。

（3）米国による制裁強化

9日、米務省は、グスタボ・ポラス国会議長やブレンダ・ロチャ最高選挙管理委員会（CSE）委員長をはじめとする、オルテガ政権関係者9名をエンゲルリストに追加すると発表した。

（4）BCIE総裁のニカラグア訪問

15日、オルテガ大統領は、BCIE新社屋の開所を記念しマナグアを訪問中のダンテ・モッシBCIE総裁と会談した。

（5）OAS代表部ニカラグア大使による政権批判ステートメント

23日、アルトゥーロ・マクフィールドズOAS代表部ニカラグア大使は、OAS常設理事会定例会合において、オルテガ政権を非難するステートメントを突如行った。また同日、同大使はロシアによるウクライナ侵略に対する米州機構（OAS）の非難声明への支持を表明した。

これに対し、ニカラグア政府は、外務省を通して、マクフィールドズ大使を解任し、同大使の如何なる声明も有効性を持たない旨表明した（上記1.（イ）ウ参照）。

3 経済

（1）フリーゾーン輸出高の増加

8日、フリーゾーン委員会（ENZF）は、2021年のフリーゾーン輸出高が3,378百万米ドルとなり、過去最高の輸出高になったことを発表した。

（2）2021年の経済成長及び2022年経済見通し

16日、オビディオ・レジエス中央銀行（BCN）総裁は、2021年のGDP成長率は10.3%（2020年は-2%）であり、インフレ率は7.21%（2020年は2.93%）であったが、2022年は成長率4～5%、インフレ率は5～6%であるとの見通しを発表した。

<主要経済指標>

	2020 年	2021 年	2022 年(2021 年)		
			2021 年 12 月	2022 年 1 月	2022 年 2 月
インフレ率（対前年同月）	0.29%	1.1%	7.21%	0.70%	1.62%
貿易収支（百万ドル）	▲1,559.9	▲2,548.0	▲206.1	▲239.1	未発表
輸出 FOB（百万ドル）	2,851.9	3,510.6	296.8	326.7	未発表
輸入 FOB（百万ドル）	4,411.9	6,058.6	502.9	565.9	未発表
海外送金受取額（百万ドル）	1,851.4	1,682.4	213.7	194.7	未発表
外貨準備高（百万ドル/期末）	3,211.9	4,046.6	4,046.6	4,086.6	4,135.4

（出典：ニカラグア中央銀行、インフレ率のみ開発情報庁（INIDE））